令和6年9月定例会 代表質問 下村佳史議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。(各議員からの「質問」(問)に該当する部分を黄色マーキングしております。)

「危機管理の総括について」

○下村佳史 皆さんおはようございます。

議長のお許しを得ましたので、香芝市議会自由民主党、下村佳史が代表質問をさせていただきます。

まず初めに、8月24日に開催されました第30回奈良県消防操法大会におきまして、ポンプ車操法の部に本消防団を代表いたしまして第1分団が出場され、見事優勝されました。ここにお祝いを申し上げたいと思います。私たちの生命と財産を守るべく、日頃の訓練と消防団活動にご尽力いただいております。日頃の生活の防災に関して、あらゆるいろんな活動に消防団が活躍していただいていることを改めて認識させていただきました。この場をお借りして、もう一度、市民のために生命と財産を守っていただく活動していただきますようよろしくお願い申し上げます。

さきの8月8日の16時43分頃に日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生したことを受け、気象庁において南海トラフ地震臨時情報が発表されました。また、台風10号は8月22日午前3時にマリアナ諸島で発生し、日本の南をゆっくりとした速度で北上し、非常に強い勢力にまで発達。8月29日午前8時頃に鹿児島県薩摩川内市付近に強い勢力で上陸し、その後四国を進み、9月1日正午に南海道沖で熱帯低気圧となりました。日本海海面水温が非常に平年よりも高く、台風10号は発達しながら九州に接近しましたが、また台風を流す風が弱く、ゆっくりとした速度で進み、影響が長引きました。これらの台風や地震の災害で被害に遭われた方々にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

地震や台風に対して、自らの身を守らなくてはなりません。そのためにも、災害対策の取組が大事となってきます。今回、まず危機管理について質問させていただきますが、先ほどの上田井議員より南海トラフ地震臨時情報についてはきめ細かく質問されましたので、この部分につきましては省略させていただきます。

私は、その次に台風について少し質問させていただきたいと思いますが、今回台風10号の進路があったわけなんですけども、奈良県、そして香芝市におきましてはさほど被害がなかったということなんですけども、今回の台風10号の市民への周知についてはどのようにされたのでしょうかと壇上から質問をさせていただき、私の1回目の質問といたします。

○危機管理監 最接近が8月31日土曜日から9月2日月曜日までという予報であったことから、8月30日金曜日の15時時点におきまして、直近の情報によりホームページで市民の方々へ注意喚起や啓発を行うとともに、各所管におきまして週末における管理施設の対応

やイベント中止などにつきまして案内を行ったところでございます。

以上でございます。

○下村佳史 ありがとうございます。

先ほども申しましたように、この台風10号は日本に接近する前からかなりの日数を経て日本を縦断したわけなんですけども、この台風10号に対する香芝市の体制はどのようにされたのでしょうか。

○危機管理監 気象庁から台風情報などに鑑みて、警報の発表や気象状況が悪化した場合に速やかに対応できるよう警戒したところでございます。職員には自宅待機を促して、気象情報を注視して過ごすよう注意喚起を行ったところでございます。

以上でございます。

○下村佳史 先ほどから何遍も申しますように、台風また地震はいつ何どき私たち身近なところに迫ってくるか分かりません。それに備えて、やはり日頃からの準備等は欠かせないものだと思っております。

そこで、災害対策の取組についてお聞かせ願いたいと思いますが、まず初めに、本市における自主防災組織の設置状況はどのようになっておられますか。

○危機管理監 本市にご報告いただいております組織の数につきましては、市内47自治会のうち45自治会が自主防災組織を設置されているところでございます。

以上でございます。

○下村佳史 自主防災組織、自治会に頼るところは多く、そして数多くの自治会が組織され、訓練等もされてると思うんですけども、まだまだ実態には、各自治会のお話を聞かせてもらおうと、身につけてる自主防災組織ではないところも多いというふうにお聞かせ願ってるわけなんですけども、その自主防災組織の活動を支援するために補助金制度とかあれば、より一層充実した自主防災組織になると思うわけなんですけども、その点香芝市はどのように補助されてるんですか。金額的なもんも、補助金のこともありますけども、その点をお聞かせ願いたいと思います。

○危機管理監 本市では香芝市自主防災組織活動事業費補助金という制度を設けております。自主防災組織の活動に係った経費に対して2分の1を補助する制度となっております。補助金の上限額は、自治会に属する世帯数に応じまして、6万円から8万円を上限に交付する内容となっております。

以上でございます。

○下村佳史 香芝市自主防災組織活動事業費補助金ということで、2分の1が出るということなんですけども、これをうまく活用してる自治会さんもおられれば、まだそのことを知らない、知ってるけども使いこなせておられないという自治会さんもおられるというふうにお聞きしてるわけなんですけども、各自治会自主防災組織が実施されている防災訓練の状況をお聞かせ願えませんでしょうか。

○危機管理監 本市にお知らせいただいたものとなりますけれども、令和5年度は8件の

実施と伺っております。また、令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染症によりまして、それぞれ2件、3件ではありましたが、令和4年度には18件となり、コロナ禍以前の令和元年度の12件とほぼ同じレベルまで回復した状況でございます。また、申請のありました一部のものについては本市の危機管理課も参加させていただいたものでございます。

以上でございます。

○下村佳史 この前、奈良県の市議会の議員研修で防災についての講演があったわけなんですけども、実際災害が起きたら、訓練をしてなかったらどのように動いていいのかわからない。また、訓練していても、忘れたり、とっさのことですので、もうパニックということが起こるということで、何回も何回も訓練を繰り返すことによって身につくというふうなお話もありました。本市による防災訓練が市民の皆様方の身につくような防災訓練にさせていただきますよう、改めてお願い申し上げます。

その中で、本市では防災士による協力も得られるようなネットワークを構築されているのでしょうか。また、任意で設置されている防災士の団体などは香芝市には存在しているのでしょうか。

○危機管理監 本市においては、防災士の協力をお願いできるようなつながりは持っていないのが現状でございます。本市の職員にも防災士の資格を有する職員がおりまして、それらの知見を生かしながら防災対策を進めてまいります。

また、その防災士で構成されているような団体の存在は把握しておりませんが、防災士に関するボランティアのネットワークの存在は認識しております。

以上でございます。

○下村佳史 こんだけ全国で災害が起こったとき、社会福祉協議会が中心になって開設、ボランティアを受け入れたりされる、各種団体を受け入れたりするのをやってるわけなんですけど、その中でも自分たちの力量を磨いて防災士になられた方の利用は、災害地にとって特に必要不可欠な方々だと思うので、それを使わん手はないということで、香芝市でももう一度その方々を把握して、また活用していただけるよう、防災士の方をお願いしていただけるよう、ここで改めてお願い申し上げます、防災士についての質問はこれで終わりたいと思います。

続きまして、災害が起きたときなんですけども、香芝市が指定している福祉避難所の状況は現在どのようになっておるのでしょうか。

○危機管理監 災害対策基本法では、指定一般避難所での避難生活が困難であり、一定の配慮を必要とする要配慮者等を一時的に滞在させる避難場所として指定する施設などを指定福祉避難所として定められています。香芝市内の指定福祉避難所は11施設ございます。内訳としましては、公共施設が福祉センター、中央公民館の2施設、民間の社会福祉施設が9施設ございます。

以上でございます。

○**下村佳史** 福祉避難所というふうに断定して質問したわけなんですけども、避難所は災害が起きたときに開設されるわけなんですけども、特にその中での福祉避難所というのは弱者にとっては必要不可欠な避難所でありまして、また一般の方も福祉避難所を使うことによって助かる助からないと言ったら言い過ぎかも知れませんが、いろんな状況を少しでも和らげる場所になるというふうに全国でも再確認されてる部分がありますので、その利用方法を今後はきめ細かく決めていただきたいと思いますというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

そして、先ほども言いましたように、県の議員の研修のときに一番問題になったのが避難所におけるトイレの整備、使用方法が一番問題だというふうに講師の方からもお話がありました。本市の避難所におけるトイレの整備状況や対策はどのようなになっているのでしょうか。

○**危機管理監** トイレの整備状況でございますけれども、まず簡易トイレや使い捨てのタイプのトイレでございますけれども、こちらにつきましては約2万4,000回分を備蓄してございます。あわせて、現在本市の10か所の指定避難所に合計61基のマンホールトイレを設置しております、県内でも一番多い状況でございます。また、仮設トイレ、工事現場のほうで使用されるようなトイレでございますけれども、こちらにつきましては、非常時において優先的に配備してもらえよう、民間との支援協定の締結など調整を図っておるところで、トイレの環境整備の充実に向け、取り組んでおるところでございます。

以上でございます。

○**下村佳史** 回数分にはかなりの備蓄をされてるというふうに聞きますねけども、その中でも男子はトイレの使用、大と小がありまして、小のほうは何とかなるわけなんですけども、大のほうの使用法で、やはり和式よりも洋式が使い勝手いいし、なかなか高齢者の方とかは和式では使えないという事例もあります。その点、市が備蓄してるトイレについては和式、洋式、また民間の仮設トイレについても災害時に優先していただけるというふうに今お聞かせ願ったわけなんですけども、その中での洋式化率とかは把握されているのでしょうか。

○**危機管理監** マンホールトイレにつきましては洋式タイプでございますけど、今後連携協定を結びます仮設トイレにつきましては比較的、和式が多いのではないかと考えております。

以上でございます。

○**下村佳史** まだ災害が起きたわけじゃないんで、ぜひともそういう意味では洋式トイレを優先的に、また洋式トイレを準備していただけるように協定の中に盛り込んでいただければより一層市民の方の利用価値が上がるんじゃないかなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

続きまして、本市の災害時における備蓄物品はどのような状況になっておるのでしょうか。

○**危機管理監** 本市では、中央構造線断層帯による避難者数を最大で約2万2,000人と想定し、これに合わせた災害用備蓄品を整備し、平成25年度以降、計画的に進めてまいりました。その結果、平成25年度末から現在までで、食料につきましてはアルファ化米やクッキーなど延べ約5,000食から約2万2,000食に、飲料水は500ミリのペットボトルが約2,000本から約2万2,000本に、毛布につきましては約1,300枚から約1万7,000万枚(令和6年9月20日「1万7,000枚」に訂正)にそれぞれ備蓄を増やすことができた状況でございます。

備蓄量としては以上でございますけれども、今後、公共施設や民間団体などと締結しております災害時応援協定に基づくご支援の内容も考慮しながら、これからの備蓄量は見直してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○**下村佳史** 備蓄品等は災害時には避難所に配られるということで想定されてると思います。この避難所ちゅうのは俗に言う自治会の公民館等が入っていないと思いますし、そこが備蓄の一つの備蓄場所にもなっていないと思います。そういうことに鑑みますと、やはり身近な公民館が備蓄場所の一つの場所として提供してもらえれば、なお一層市民の元に手早く、そして安全に届くんじやないかなというふうに思いますので、その点も考慮していただきたいなと思うとともに、この備蓄品を今現在管理しておられる場所なんですけども、どういところで管理されてるか、教えていただければありがたいなと思います。

○**危機管理監** 現在管理しておりますのは、市役所西側でございます備蓄倉庫、また中学校の空き教室などを使って保管しとる状況でございます。

以上でございます。

○**下村佳史** ということで、先ほどからの地震、また台風による水害などが起こりますと、ひょっとしたら水没したり、それで地震により倒れて、その備蓄品が使えないという状況も起こり得ると思うわけなんですけども、そういう意味におきまして、防災の拠点、そして減災教育の場や災害時の活動の拠点にもなる防災センターの設置を考えていただくことはできないでしょうか。

○**危機管理監** 現在、防災センターについては検討に至っておりません。今定例会に提案しております機構改革に伴う施設整備の一環といたしまして、危機管理課の執務スペースの改善を図り、また市長の行政報告にもありましたように、河川等監視システムの整備などにより、防災施策の強化を図ってまいりたいと考えております。

市民に対する防災・減災教育の場といたしまして、出前講座の実施をしており、今後も地域の防災訓練への参加や広報紙への防災に関する記事の掲載などを通じまして、市民の方々への防災啓発活動を行ってまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○**下村佳史** 今回、初めて南海トラフ地震臨時情報、また台風10号という長い期間日本を縦断したという台風等、大きな災害になり得る地震、台風が増えてきているように思います。ぜひとも防災センターの設置に向けた取組をしていただき、先ほどの備蓄等、また教育の場と

しても利用していただくような場所が必要じゃないかなというふうに思いますので、今後検討していただきたいなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

「地域公共交通について」

○**下村佳史** 続きまして大きな2番目、2項目、地域公共交通の活性化対策についてご質問いたします。

まず初めに、コミュニティバスについてなんですけども、9月に入って過ごしやすい気候となりまして、これから秋の行楽シーズンを迎え、地域公共交通の利用が多いシーズンと考えられることから、質問させていただきます。

香芝の観光拠点の一つにどんづる峯がございますが、コミュニティバスでは直接乗り入れてはいない状況があります。乗り入れていない理由があるのでしょうか。お伺いしたいと思います。

○**危機管理監** コミュニティバスの運行ルートにつきましては、安全な乗合運行を担保するため、バック走行での切り返しをしない走行ルートを設定しております。どんづる峯では旋回場所が確保できないことから、乗り入れていない状況でございます。

以上でございます。

○**下村佳史** 理由については理解させていただいたわけなんですけども、現状のコミュニティバスの停留所いろいろあるわけなんですけども、このどんづる峯にアクセスするにはどこの停留所を利用させていただければよいのでしょうか。よろしく願いします。

○**危機管理監** 現状におきます最寄りの停留所につきましては、晴実台または穴虫西のいずれかでございます。いずれの停留所からも、どんづる峯まで歩いて10分（令和6年9月20日「30分」に訂正）ほどの位置でございます。

以上でございます。

○**下村佳史** どんづる峯へ行くってことはハイキングがてら行かれるわけなんですけども、どんづる峯の階段や山道を上る前のちょっといいウォーキングルートになるのかも、30分ぐらいだったら、しれないんですけども、私が質問したどんづる峯は、市の観光地という意味では一例にすぎません。コミュニティバスの運行につきましては、日々市民の方から要望を寄せられることもあると思いますが、そこで質問いたします。

令和5年1月から現在のルート、ダイヤで運行開始されて以降に利用者の声を聞くアンケート等の実施はされたのでしょうか。

○**危機管理監** 令和5年9月中に、バス車両内におきまして利用者への聞き取り、またはヒアリングシートの設置によるアンケートを実施いたしました。約250件の回答を得ております。アンケート内容は、利用者の年齢、外出の目的、利用頻度、令和5年1月リニューアル前後での使いやすさの比較をアンケート内容としております。

以上でございます。

○下村佳史 このアンケートの質問内容、利用者の年齢、外出目的、利用頻度について質問があるというふうにお聞きしたんですけども、アンケートの結果の概要が分かれば説明お願いしたいと思います。

○危機管理監 利用者の年齢につきましては約80%が65歳以上の方、外出の目的は約30%が買物、約15%が習い事や市の講座への参加、同じく約15%が温泉利用となっております。また、利用頻度につきましては、約75%が週1回以上のご利用というところでございます。令和5年1月リニューアル前後での使いやすさの比較につきましては、「使いにくくなった」が約47%と多数ですが、「リニューアル後から利用を始めた」、「使いやすくなった」、「今までと変わらない」の合計が約53%と、現在のルート、ダイヤでの受け入れられている状況をご意見として頂戴しております。

以上でございます。

○下村佳史 分かりました。

ルートを変えることによって、今まで使いやすかった人が使いにくくなったり、使いにくかった方々が使いやすくなったりと様々なご意見あるかと思いますが、一概に切っ捨ててやるようなことはないように、市長のほうも乗車人数を今把握されてるということもかねてからお聞かせ願ったわけなんですけども、ぜひともルート変更のときにはそういうことも加味しながら使いやすいルートを決めていただきたいなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

次に、デマンド交通についてお聞かせ願いたいと思います。

以前の運行でよかったという声もある一方で、今のルート、ダイヤに変わったという利用でされている、あるいは変わらず利用されているのも多くいらっしゃるということですが、コミュニティバスのルート、ダイヤを見直す際に、変えてほしいという要望だけでなく、現在利用されてる方も、先ほども言いましたように、慎重に検討してほしいんですけども、市が運営する公共交通にはデマンド交通もございます。こちらについては現状どのぐらい利用があるのでしょうか。

○危機管理監 令和5年度の実績では年間4万6,726人、1日当たり約193人を運送しており、直近の7月実績では年間4,367人、1日当たり約199人となっております。

以上でございます。

○下村佳史 今の年間4万人、月間では7月実績で4,000、1日199ということで、かなりの利用があると思うんですけども、一方、予約が取れないという声が、そういう声も言われて、僕のほうにも耳に入ってくるわけなんですけども。

そこで、こういった予約が取れないというお話があるのを市役所に寄せられた際には、どのように利用促進につなげていくのか、また工夫されているのか、お聞かせ願いたいと思います。

○危機管理監 個別でのお問合せへの対応や地域公共交通の出前講座を実施する機会には、予約の取り方についてアドバイスをさせていただいております。具体的に申し上げます。

と、デマンド交通の予約状況は特に午前中が集中しており、午後は当日でも多少空きがあること、また当日ではなく、1週間前から予約し、計画的にご利用いただくこと、あるいはデマンド交通の予約が取れた時間に合わせて外出の予定を組んでいただくこと、コミュニティバスのご利用を案内するといったご説明をさせていただいております。

以上でございます。

○**下村佳史** 先ほどからコミュニティバス並びにデマンド交通についてお聞かせ願ったわけなんですけども、やはり高齢者の免許証の返納とか、そして生活の中での弱者の方でも利用頻度が高い交通手段だと思いますので、繰り返しになるかも分かりませんが、デマンド交通とコミュニティバスの利用が市民にとってよりよいものになるように考えていただきたいというふうに思いまして、要望させていただきたいと思います。

「学童保育所について」

○**下村佳史** 続きまして、学童保育所についてお聞かせ願いたいと思います。

半月前になるわけなんですけども、隣接の町で香芝市が運営している、香芝市が民間に委託している業者がなかなかうまく運営できなかったということで、保護者の方からも町の議会に要望書等を出されたという、請願書を出されたという経緯があるわけなんですけども、そのことについてお聞かせ願いたいと思います。6月議会に学童保育所の抜本的な改善を求めて、先ほども言いましたように、請願書が出されたわけなんですけども、本市の運営について、その業者については安心できるものであるのか、同じ業者というふうにお聞かせ願ってるので、ちょっと心配になったんで、お聞かせ願いたいと思います。

○**福祉部次長** 失礼いたします。

議員のご質問の件につきましては、本市も認識してございます。本市におきましては、現在のところ混乱はなく運営ができていると認識してございます。

以上でございます。

○**下村佳史** 市の職員と同じように、民間業者であっても職員の入れ替わりがあると思いますが、職員とコミュニケーションが円滑に取れていたり、例えば本市の学童保育所は比較的新しい施設もあれば少し古くなった施設もあるというふうに思われるわけなんですけども、施設整備においても現場で働く支援員の声というものは届いてるのでしょうか。なかなか、民間業者に委託していれば、もう民間業者に全て丸投げっていうことはないと思うんですけども、その点についてもう一度、支援員の声が市に届いてるかどうかをお聞かせ願いたいと思います。

○**福祉部次長** さきの答弁と同様に、職員の入れ替わりはあると認識してございます。本市といたしましても、基本的に運営については指定管理者制度により事業者任せにしている部分はございますが、定期的に市の職員が施設を訪問する中で、支援員との会話の中で現場の声を聞きながら情報共有もさせていただいてるところでございますので、今後も継続して

行ってまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○**下村佳史** ぜひとも指導員さんの声、また保護者の声を拾えるような制度、また仕組みを今以上に聞き取れるような方法を考えていただければ改善につながるんじゃない、子供のためによりよい方向に進んでいくんじゃないかなというふうに思いますので、そこら辺をもう一度点検していただいて、香芝の学童保育はよそに比べて、民間であっても素晴らしいものだというふうに自負できるような施設にさせていただきたいなというふうに思います。

それでは、その学童を利用する児童の中で支援員が必要な場合の人数は確保されているのでしょうか。

○**福祉部次長** 条例で定めている必要な職員に加えまして、支援が必要な児童に応じて職員を追加で配置し、運営してございます。

以上でございます。

○**下村佳史** 指導員の人数はちゃんと足りてるということなんですけども、ぜひともそれを維持していただき、よりよい指導員を配備していただきたいなというふうに思いますが。

学校における保護者等の対応が必要であると考えていますが、プライバシー保護についてお聞かせ願います。学童としてもプライバシーの保護等の対応はどのようにされているのでしょうか。

○**福祉部次長** 失礼いたします。

学童保育所の運営上、学校と同じように個人情報の取扱いには十分気をつけさせていただいてるところであります。職員の知識や意識向上のために、職員採用後につきまして、月に1回、職員に必要な研修を実施しながら、運営上必要な知識向上に努めているところでございます。

以上でございます。

○**下村佳史** ソフト面でそういった指導員の方々の技術の向上、そして認識の向上を図っていただくことは大変意義あることだと思いますので、引き続きお願いしたいというふうに思います。

その中で、ハード面なんですけども、学童保育の施設整備についてお聞かせ願いたいと思います。共働き世帯が増加してる中で、学童を利用する世帯も今増えてきているものと考えておりますが、地域差があるとは思われますが、利用者が今後増加した場合における学校の余裕教室等を利用した考えはないのか。

そして、その意味におきましては、施設の運営上、現在学校の余裕教室も使ってるところもあるわけなんですけども、1人当たりの広さ1.65平方メートルを確保してる状況であるのかどうかも併せてお聞かせ願いたいと思います。

○**福祉部次長** 地域差はあるとは思われますが、利用希望者の増加がある場合や既存施設の状況によっては学校施設等の空き教室を利用し、対応していくところは、実情はございます。その際には、関係機関と協議を行いながら検討してまいるところでございます。

次に、面積につきましては、毎日の利用される児童の状況で見ますと、条例上に記載のおおむね1.65平方メートルは確保できると認識してございます。

以上でございます。

○下村佳史 今現在の香芝市の状況では、子供たちの数が減ってきておりますが、先ほども言いましたように、学童の子供たちの数は増えてきてると状況があります。その中で、今もおっしゃっていただきますように、空き教室を利用する、そういった対応されてるわけなんですけども、これから予定では、なくなる幼稚園もあるというふうに聞いておるわけなんですけども、そういった公共施設も含めて利用をしていくという考えはあるのでしょうか。例えば今の子供たちの入所状況を見ると、関屋幼稚園が何年か先にはなくなるということであれば、敷地が確保されて安全も確保できている、そういった施設は利用するに値するんじゃないかなというふうに思ってるわけなんですけども、香芝市全体を見た中で、公共施設の用地ではどういうふうにご考えておられるのでしょうか。

○福祉部次長 先ほどから議員もおっしゃっていただいておりますように、学童保育所を利用される児童のほうは増加傾向でございますので、今後、施設の活用につきましては、おっしゃいました公共施設の学校等の空き教室の活用については検討していく必要があると考えてございます。

以上でございます。

○下村佳史 施設面的に子供たちが本当に余裕を持って伸び伸びと学童保育所で過ごせるように、そしてまたその子供たちに対してすばらしい指導していただける指導員の皆様方のご尽力に改めて敬意を表しながら、私の代表質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。